

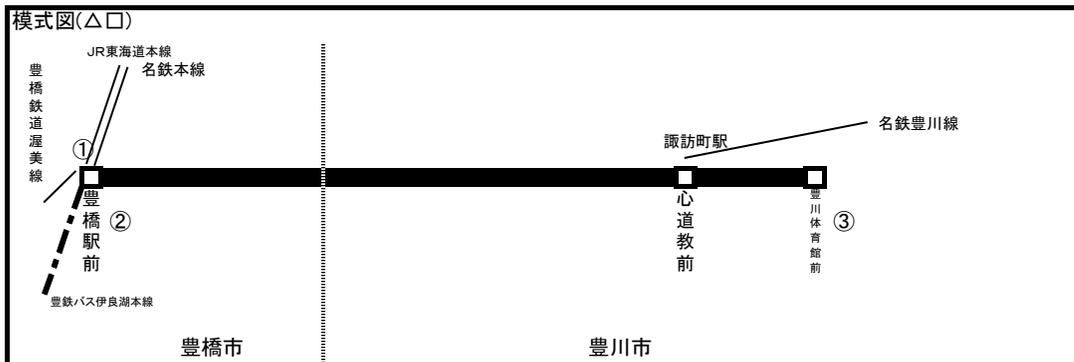
令和6年度補助系統別事業評価票(豊川(体育館前)線)

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
豊川(体育館前)	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	豊橋駅前～豊川体育館前	8.6 km	6.5 回	豊橋市 豊川市 0 0
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)
<p>&lt;接続する系統&gt;</p> <p>名古屋鉄道本線・豊川線、JR東海道本線・飯田線、豊橋鉄道渥美線、豊鉄バス(伊良湖本線)</p> <p>&lt;接続される系統&gt;</p> <p>豊鉄バス(豊橋市域内路線)、豊橋コミバス(①しおかぜバス②かわきたバス)、豊川コミバス(③小坂井線)</p>



2. R6年度の運行状況

事業実施の適切性	
計画どおり運行されたか(△)	
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由
A	補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。

評価の基準<事業実施の適切性>  
 A: 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合  
 B: 車両故障等運行事業者の責にすぎず事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合

評価の基準<目標・効果達成状況>  
 A: 年間目標利用者数を達成できなかったもの、目標の75%以上の利用があった場合  
 B2: 年間目標利用者数は達成できなかったもの、目標の50%以上の利用があった場合  
 C: 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合

《参考数値》 主要指標の推移(△)						
年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	
年間利用者数【人】	39,482	33,474	36,471	54,744	56,800	
平均乗車密度(実績)	2.9	2.6	2.7	4.6	4.8	
輸送量	(計画)	18.4	18.4	16.2	15.0	14.3
	(実績)	16.8	14.5	15.3	27.6	31.2
収支率(実績)	52.9%	48.6%	47.9%	78.3%	91.0%	

目標・効果達成状況

評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)
A	目標	31,792
	実績	56,800
	達成率	178.7%
	要因	定期外利用者の増加
市町村の所見、理由分析、認識(□)		
市町村名: 豊橋市		市町村名: 豊川市
令和5年3月に大型商業施設の開業に伴って路線を延伸した結果、利用者数が増加し、その増加は現在も続いている。今後も沿線市と協力して周知活動を行い、新しい利用者の獲得に努めていく。		令和5年3月に大型商業施設開業に合わせて路線を延伸したことにより増加した利用者数が維持できており、さらに増加している。引き続き沿線市と連携して周知に努め、新規利用者を獲得していく。
市町村名: 0		市町村名: 0
市町村名: 0		市町村名: 0
市町村名: 0		市町村名: 0

複数市町村を跨ぐ系統としての役割

指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)				
市町村を跨ぐ利用者数(△)	1,275 人/月	市を跨いでの利用が利用者の約3割を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、豊橋市、豊川市相互間の通勤利用者が大部分と考えられる。	市町村名: 豊橋市	市町村名: 豊川市	市町村名: 0	市町村名: 0
全利用者に占める率(△)	32.1 %		主に豊橋市・豊川市への通勤、買い物、通院などの移動手段となっている。	主として豊橋市、豊川市相互間の通勤利用など、住民の生活の足として利用されている。		
特記事項	豊橋市と豊川市を跨ぐ利用者と率。推定値。					

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報

運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)

### 3. R6年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
A	沿線市の公共交通イベント時に、ICカード導入を見据えた乗り方教室の実施。	市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0
改善点とした事項(△)		市内の公共交通情報を掲載した公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知を行った。	豊鉄バス新豊線・豊川線の時刻表を豊川市バスマップ及びHPに継続掲載したほか、市内の主要施設において豊鉄バス新豊線・豊川線の時刻表を配布した。		
事業者、市、地元自治会等が連携し利用促進に努める。	東三河地域公共交通活性化協議会と連携し、夏休み小学生50円バスと「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」などを実施。	市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0
関係者の連携等(△□)		東三河地域公共交通活性化協議会とも連携し、夏休み小学生50円バス、「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」、「公共交通利用促進ポスター&川柳コンテスト」を実施した。	東三河地域公共交通活性化協議会とも連携し、夏休み小学生50円バス、「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」、「公共交通利用促進ポスター&川柳コンテスト」を実施した。また、事業者と連携し、子ども向けバスイベント「夏休み路線バス探検キャラバン」を実施した。また、東三河市町村・運行事業者と連携し、大型商業施設での公共交通PRを実施した。		
必要な情報交換を実施。	その他の取組				

### 4. 今後の課題

課題と認識している事項					
運営主体(△)	沿線市町村(□)				
沿線の地元住民への情報提供を充実させていく必要がある。また、沿線市と協力しコミュニティバス等の乗継案内を充実していく。	市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0	市町村名： 0
	公共交通の維持・強化、利便性を向上させ、新たな利用の創出及び定着化を図る必要がある。	利用者数維持・更なる利用者確保のための工夫が必要である。当該路線とコミュニティバスの乗り継ぎの利便性向上や、利用促進の取り組み、周知等が必要である。			
	運行事業者(△)				

### 5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組					
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
R7年度、R8年度に行う取組	令和7年3月に導入予定の交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る。	市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0
		交通系ICカード導入に向けた周知を効果的に行い、利用者の利便向上を図る。MaaS推進によるデジタル環境の充実の取り組みを行う。	交通系ICカード導入前後の周知を徹底し、利用促進を行う。利用者の利便向上を図る。		

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

### 6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

沿線市町村(□)					
目標	市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0	市町村名： 0
自己評価	目標未記載	目標未記載			
	外出の増加、積極的な利用促進事業の実施により、生活交通確保計画における目標である「収支率1%以上向上」を達成した。今後も運営主体及び関係自治体と連携した沿線施設の紹介や利用促進等を行い、新規の利用者の獲得を図っていく必要がある。	生活交通確保計画における目標である「収支率1%以上向上」を達成した。大型商業施設開業に合わせた令和5年3月の路線延伸により大幅に増加した定期外利用者がさらに増加した。今後も運営主体及び沿線市と連携し、新たな客層の掘り起こしにつなげていく。			

### 7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)					
市町村名	豊橋市	豊川市	0	0	0
フィーダー系統である豊鉄バス「三本木線」と豊橋市コミュニティバス「しおかぜバス」、「かわきたバス」に豊橋駅で接続している。		豊川体育館前で豊川市コミュニティバス(小坂井線)と接続している。			

**通信欄** (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください